

地震対策をはじめとする危機管理マニュアル

キャビック株式会社
2012年7月

この危機管理マニュアルは、あらゆる潜在リスクが発生した場合に備えて、事前の取り決めや緊急時対応を定めております。

【災害が起こったときの対策方法】

もし以下の事態が起こった場合に備えて、十分読んで対応できるようにお願い致します。

1. 現場に行くまでに地震・火災が起きた場合

「電車等の車内の場合」

つり革や手すりにしっかりとつかまり、倒れないようにする。
途中で止まっても、非常ロックを開けて車外に出たり、窓から飛び降りたりしないこと。

「街中の場合」

その場に立ち止まらず、空き地や公園等の広い場所に避難する。
自動販売機、ビルの塀ぎわ等には近づかない。
道路に突然、亀裂が入ったり、マンホールがせり出すこともあるので、亀裂やマンホールから素早く離れる。
感電の恐れがあるので、切れた電線には触れないようにする。

「高層ビル内の場合」

大きな棚や可動性の家具から離れ、ドアや窓を開けて避難口を確保する。
エレベーターは停止するおそれがあるので、階段を使って避難する。
火災が起きた場合は、できるだけ火災が発生している部屋のドアを閉めて炎と煙に巻き込まれないようにする。

2. 現場（店舗）で地震・火災が起きた場合

「店舗内の場合」

調理器具を店舗内で使用していたら電源を切り、備品類は試食台の中やかばんに片づける。店舗責任者の指示や誘導で足元に気をつけながら試食台から離れ、出口や非常口に避難する。

3. 帰宅が困難になった場合

火災の発生などで交通機関が麻痺し、帰宅が難しい状況になった場合、徒歩での帰宅が可能なら、帰宅ルートの被害状況や帰宅途中の安全性等を確認してから、無理をせず自分のペースで歩いて帰る。
徒歩での帰宅が不可能なら、避難場所等安全な場所に移動する。
帰宅ルートは、実際に歩いて確認し、所要時間やコンビニ、ガソリンスタンド等の場所も調べておく。
以上の場合、落ち着いてから会社に必ず連絡する。

【災害時の連絡方法】

電話が繋がらないときに役立つのが、「災害用伝言ダイヤル」や「災害伝言板」です。
日頃から使い方を確認しておき、いざというときにすぐに使えるようにしておくこと、混乱中でも家族と連絡が取りやすいです。

災害用伝言ダイヤルについて

被災地内の家族や親戚、知人等の安否確認や緊急連絡を取るための伝言板。
災害用伝言ダイヤルの提供開始や録音件数に関しては、テレビ、ラジオ等で告知される。
利用方法は、「171」をダイヤルし、ガイダンスに従って、録音、再生を行う。

利用方法

1. サービス特番171をダイヤル
2. 「録音」か「再生」を選択
- 3-1. 「録音」の場合：「13」を押してから被災者の「電話番号」入力→「1#」で録音→「9#」で確認→終了
- 3-2. 「再生」の場合：「24」を押してから被災者の「電話番号」入力→「1#」で再生→「9#」で次の伝言→終了

緊急連絡・報告ルート

- 電話番号：075-257-6868
- FAX：075-211-2647
- マニュアルに記載ある緊急連絡先の携帯電話番号

※携帯電話や固定電話が通じない時

- メールアドレス：cabies@cabic.net
- 災害用ブロードバンド伝言板 <https://www.web171.jp/>
- yahoo災害伝言板 <http://mb.softbank.jp/mb/service/dengon/>（各社携帯から上記のサイトで安否情報など確認できます）

災害用伝言板について

携帯電話のウェブ機能を使った伝言板サービス。
登録された情報は、携帯電話、スマートフォン（契約電話会社間の規制はなし）、パソコンで確認できます。

